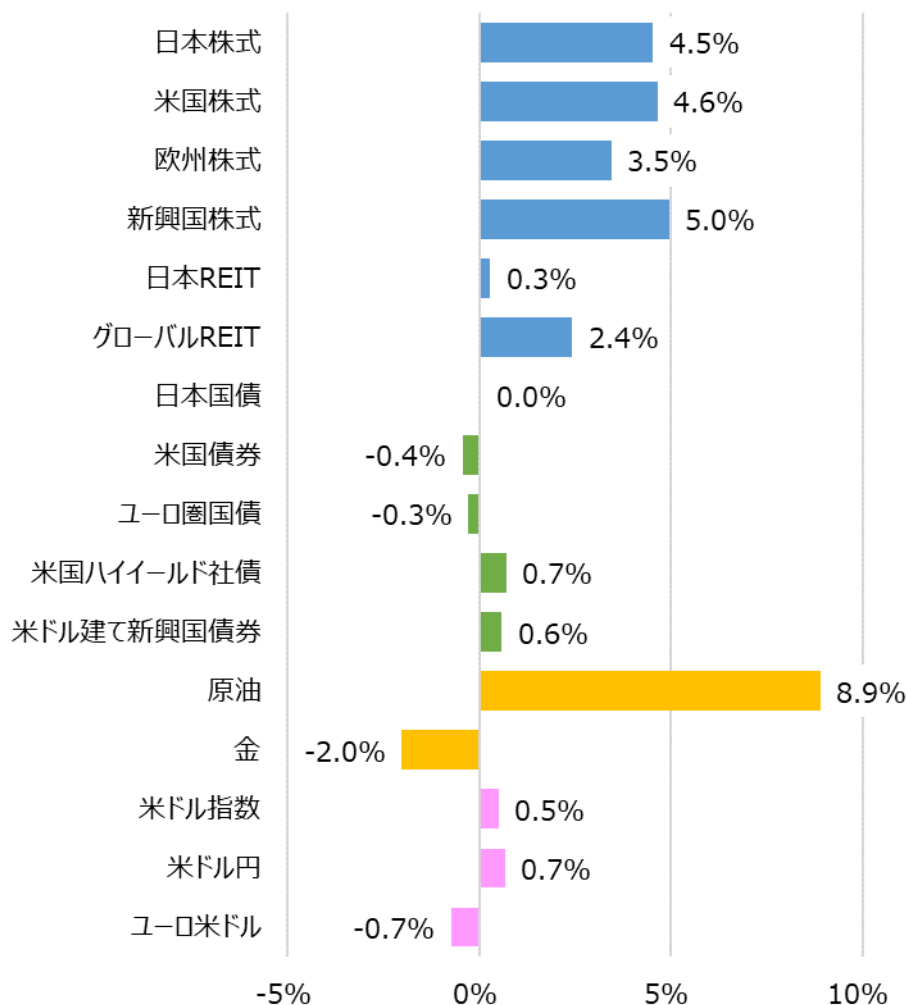




Weekly Market Review

期間：2021年2月1日～2021年2月5日



【日本株式】

米国株式市場が落ち着きを取り戻し、投資家のリスク選好を強めました。決算発表で業績予想を上方修正する企業が相次ぎ、買いを集めました。パンデミック収束後の業績改善期待から出遅れが目立っていた景気敏感セクターも買われました。10都府県で緊急事態宣言が延長されましたが、国内感染の拡大が小休止していることで相場への影響は限定的でした。

【米国株式】

個人投資家の投機的な動きが弱まり、市場の混乱が早期に収束したことで買い安心感が広がりました。アマゾンとアルファベットが予想を上回る好業績を発表したことで大型ハイテク株が牽引役となり、S&P500種株価指数とNASDAQ総合指数は最高値を更新しました。上下両院で予算関連法案が可決され、野党との協議を経ずに与党民主党単独で経済対策を実現できる可能性が高まったことも買い材料視されました。経済指標も概ね良好でしたが、5日発表の雇用統計では非農業部門雇用者数の伸びが事前予想を下回りました。

【欧州株式】

EUが英アストラゼネカ製ワクチンの使用を承認し、アストラゼネカが供給増に取り組むと表明したことでワクチン普及スピードが加速すると好感されました。ドラギ前ECB総裁が次期首相候補に指名され、安定政権樹立への期待が高まったイタリアが大幅高でした。EU統計局発表のユーロ圏10-12月期実質域内総生産（GDP）は前期比▲0.7%と再びマイナス成長に陥りましたが予想ほどは悪化せず、投資家に安心感を与えました。

【新興国株式】

中国・台湾・インド・韓国などのアジア新興国企業が相場を牽引しました。中国人民銀行が短期金融市場における資金吸収を休止し、供給に回ったことで金融引き締め懸念が後退しました。インドはインフラ投資や医療関連支出に重点を置いた来年度予算案が好感されました。米NASDAQ総合指数の最高値更新から台湾や韓国の主力ハイテク株も堅調でした。

【日本REIT】

足もとのパフォーマンスが好調だったことから利益確定売りに押され、冴えない動きになりました。リテールやホテルリゾートは堅調でしたが、物流やオフィスのマイナス寄与が大きくなりました。

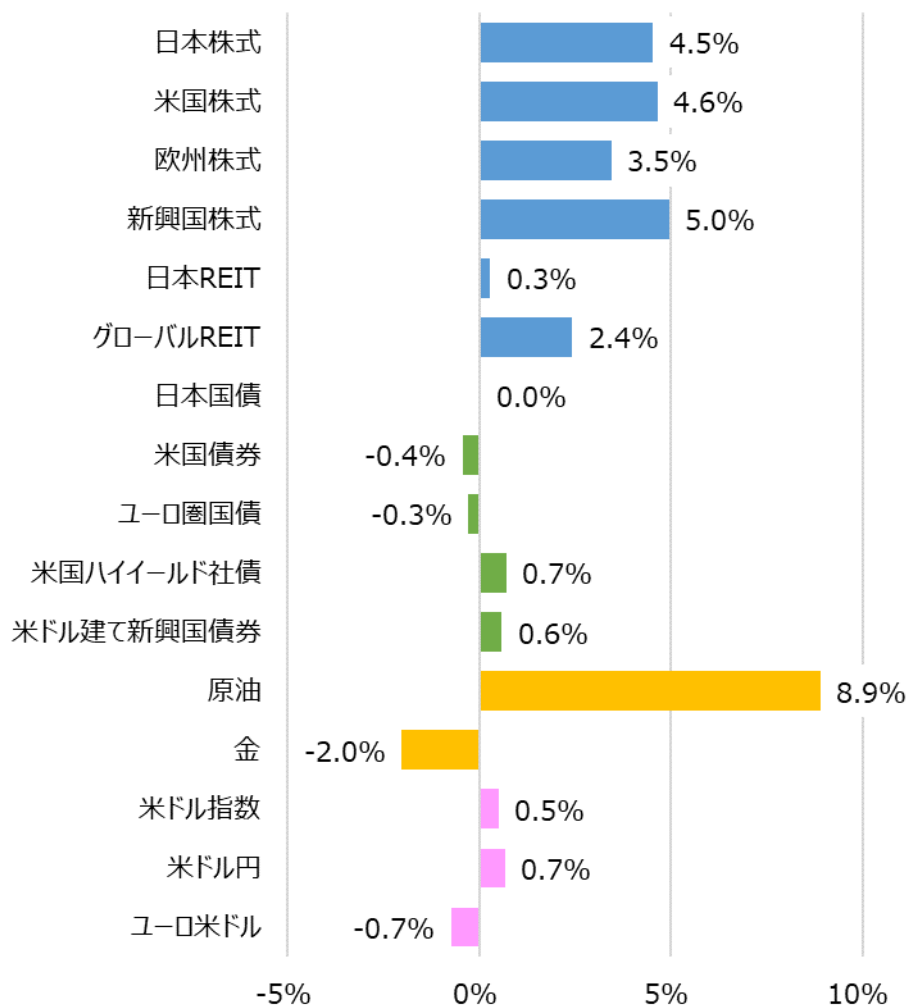
【グローバルREIT】

株式市場の落ち着きが買い安心感に繋がり、米国市場が堅調に推移しました。ISM非製造業景況感指数が堅調な伸びを示したことや、新規失業保険申請件数が予想外の減少となったこともリスク選好を強めました。住宅・物流・ヘルスケアなどがパフォーマンスを牽引しました。



Weekly Market Review

期間：2021年2月1日～2021年2月5日



【日本国債】

日銀が1月29日夕刻に発表した2月の国債買い入れオペ方針では、5年以下の購入通知額の上下限が引き下げられ、**需給悪化への警戒**が強まりました。ただ、**10年と30年の国債入札が好調な結果**だったことや、日銀の国債買い入れオペ結果が売り意欲の弱さを意識させる内容だったことなどから底堅い動きでした。

【米国債券】

経済対策案を与党民主党が単独で成立させるとの観測から**国債増発懸念**が再び強まりました。財務省が発表した**四半期定例入札規模が過去最大**となったことも需給悪化を意識させました。FRBが超低金利政策を継続する一方、経済対策の早期成立によって景気回復が加速するとの見方から**イールドカーブのスティープ化**が進みました。

【ユーロ圏国債】

ユーロ圏の消費者物価指数速報値が予想を超える伸びとなり、中核国債が軟調でした。一方、周辺国債は堅調でした。イタリアで次期首相候補に指名された**ドラギ前ECB総裁が組閣作業に着手**したことが好感されました。域外では、**英中央銀行がマイナス金利の早期導入に否定的な見解**を示したため、英国債が軟調でした。

【米国ハイールド社債】

株式市場が落ち着き、リスク選好姿勢が回復したことから**クレジットスプレッドが縮小**しました。原油価格の上昇から**エネルギーセクター**が買われ、米国内の感染拡大が小休止していることから**景気敏感の消費関連銘柄**も堅調でした。

【新興国債券（米ドル建て）】

新興国債券の**クレジットスプレッドも縮小**しました。**エクアドルやメキシコ、オマーンなどの産油国**がリターンに貢献しました。

【コモディティ（金・原油）】

金は、**個人投資家の投機的売買の標的が銀先物など貴金属市場にも広がっている**との見方から値動きの激しい展開でした。米名目長期金利の上昇と米ドル高も重荷でした。原油は、OPEC加盟国の協調減産縮小による1月の増産幅が事前予想ほど大きくなかったことや、米原油在庫の予想以上の減少などから需給の引き締まりが意識されました。

【米ドル指数】

米経済の強さを示す指標が相次ぎ、ドル買いが優勢となりました。米長期金利が上昇し、金利差拡大観測から、対米ドルで円やユーロが売られました。



当資料のお取り扱いに関する留意事項、使用している指数等について

当資料は情報提供を目的としてアストマックス投信投資顧問株式会社※が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当資料は当社が信頼できると判断した情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中に記載した内容、数値、図表等は、当資料作成時点のものであり、今後、予告なく変更することがあります。当資料で使用している各指数に関する著作権、知的所有権その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。なお、当資料のいかなる内容も将来の投資成果を示唆ないし保証するものではありません。

※2021年3月8日付で商号を「PayPayアセットマネジメント株式会社」に変更する予定です。

日本株式：TOPIX（東証株価指数）

米国株式：S&P500種株価指数（米ドルベース）

欧州株式：STOXX Europe 600種株価指数（ユーロベース）

新興国株式：MSCI新興国株式指数（米ドルベース）

日本REIT：東証REIT指数

グローバルREIT：FTSE EPRA/NAREITグローバルREIT指数（米ドルベース）

※文中に世界株式とある場合、MSCI All Country World Index（新興国を含む全世界株式指数、米ドルベース）をさします。また、新興国通貨とはMSCI新興国通貨指数（対米ドル）をさします。

日本国債：FTSE日本国債指数

米国債券：ブルームバーグ・バークレイズU.S.アグリゲイト・フロートアジャステッド指数（米ドルベース）

ユーロ圏国債：ブルームバーグ・バークレイズ・グローバルアグリゲイト・ユーロガバメント・フロートアジャステッド指数（ユーロベース）

米国ハイイールド社債：ICE バンク・オブ・アメリカ・メリルリンチ米国ハイイールド・コンストレインド指数（米ドルベース）

米ドル建て新興国債券：J.P.Morgan 米ドル建て新興国債券コア指数（米ドルベース）

原油：S&P GSCI原油エクセスリターン指数（米ドルベース）

金：S&P GSCI CME金エクセスリターン指数（米ドルベース）

米ドル指数：ICE USが算出・公表する米ドルインデックス

出所：ブルームバーグ